

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は「地元で根ざし、人権教育を行う学校を」という、地域の熱い要望により設立された。その経緯と伝統を大切に継承し、創立以来の人権教育を軸とした教育実践の充実をはかり、今後も柴島高校人権教育の更なる発展をめざす。そのため、全ての生徒のニーズに応えられる学校づくりをめざし、生徒一人ひとりの個性の伸長と持てる力を最大限に伸ばし、自己実現に向けて大きな展望のもてる「確かな学力と生きる力」を身につけることができる総合学科づくりを行う。

合わせて、障がいの有無や様々な立場の人が、互いに違いを認めながら、共に生き生きと充実して暮らすことのできる人権が尊重された成熟社会の実現に資する生徒が育つ学校を創造する。

- 1 生徒一人ひとりがそれぞれの個性を生かし、主体的に学習に取り組み、学ぶことの楽しさや成就感を感じる中で、知識・技能を獲得し、思考・判断・表現できる力をつけることのできる学校
- 2 自己探求と社会参加への自覚を深める取り組みを通じて、自己実現に向けた進路を切り拓ける学校
- 3 活発な特別活動を通して豊かな心と健康な身体を育てる学校
- 4 一人ひとりが活躍し、学びを得ることによって、社会の多様性推進に貢献できる生徒が育つ学校
- 5 家庭との連携を深めるとともに、生徒一人ひとりが地域や社会の人々と関る中で、豊かな人間性と市民性を育てる学校

2 中期的目標

1 主体的な学習に向けた授業改善の推進

(1) 「協調学習」への授業改善をすすめ、主体的な学習力（生徒自らが考え、理解し、次に学びたいことを見つけ出しついでいける力）の育成

- ア 学力育成部を核として学習力向上に向けた新たな授業形態への改善をはかる。
- イ 学習者の視点に立った、教材の研究・開発する。
- ウ 学習方法や方略を獲得させ、生活習慣を見直すことで、学習行動を促しその習慣化を図る。
- エ 視聴覚機器を積極的に整備し生徒の発表する場を増やす。そのことにより表現力を育成し主体的な学びの姿勢を強化する。(授業アンケートで検証)
- オ 評価を工夫・改善することで授業の形態を改善し、生徒の主体的な学びを促進する。校内でそのための議論を進める。(研修を実施する)

(2) ユニバーサルデザインを意識した教育環境、授業づくりの推進

- ア 全教職員で全ての生徒がわかりやすい授業づくりに取り組む。
- イ 電子黒板やプロジェクターなどの視聴覚機器を充実させることで視覚による情報を増やし理解を促進させる。(研修を実施する)

2 キャリア教育・人権教育の推進

(1) 3年間を見通したコアカリキュラムの作成

- ア 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」、特別教育活動を通じて、自己の探求と、他者とのつながり、自分と社会のつながりを理解させ、夢と志を持った進路選択と自己実現が図れるよう支援する。
- イ 自治活動においては、学校生活における様々な課題を発見し、自他の個性を活かし、協働して課題克服に取り組む体験を通じて市民性が育つよう支援する。

(2) データを科学的に分析し、その結果に基づいた科目選択・進路選択を積極的に進める。(目標値：進路達成率98%以上)

(3) 社会参加を促す体制づくりの確立

- ア 地域連携型授業並びに特別教育活動を通じて、生徒が、地域社会に直接アクセスすることや、地域の方が「ななめの関係」としての支援者となっていただくことができるように地域連携部を核として連携体制の整備をすすめる。
- イ 地域活動協議会への参加を通じて、地域と連携し、教育的・社会的資源として貢献できる学校づくりをすすめる。

3 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 安全で安心な学校づくり共同研究校として、人権教育推進委員会を中心として、調査・研究をすすめ「世代を超えた通わせたい学校」の創出につとめる。

(2) 支援教育サポート校として、研究をすすめ、「共に学び共に育つ教育」についての公開授業、巡回相談を実施する。

- ア アセスメントに基づく個別の教育支援計画の作成と教育実践についての研究を促進する。

4 ICTを活用した校務の効率化

統合学校ICTネットワークの活用と、校内イントラネットの整備・総合をすすめる中で、業務の精選と効率化を図り、生徒と触れ合う時間の確保に努める。(学校教育自己診断で検証)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>学校教育自己診断の結果はおおむね昨年並みの数値を示す結果となった。内容等は昨年度より明らかに充実しているはすが、質問の趣旨が思うように伝わらず、一部昨年度を下回る項目があった。それはイメージしやすさを意図してより具体的な事例を挙げた項目で、結果として選択肢が限定されたものと捉えられたためと考えられる。次年度については質問内容を再検討し、状況を的確に示すような数値を出せるよう心がけたい。</p> <p>また、様々な取り組みについて、関係した生徒や保護者しか知らない部分もあり、全体への周知の方法が課題として残る。Blog等で情報発信はしているが、全員がそれを必ず見ているわけではないので次年度は工夫を行い、学校全体に周知する。</p> <p>「総合学科の取り組み」「人権教育」が本校の大きな柱であるが、高大接続システム改革、次期学習指導要領に挙げられているアクティブ・ラーニングなどの「授業改革」が本校の先進的に長く取り組んできたコアカリキュラム授業群や教科での取り組みと関係し、それがひいては人権教育と深い関連があることをさらに一般化して伝えることが出来るよう努力したい。</p> <p>様々な調査の数値が良い意味でいわゆる高止まり状態にあるが、内容を精査しさらに充実させていく。</p>	<p>【第1回】 学校の方針を理解し支援する。総合学科・人権教育のパイオニア校として今後も継続して取り組まれるよう期待する。これからの活躍を良い取り組みをもっと情報発信してはどうか。特に校内の生徒や保護者にもっとアピールしていただきたい。</p> <p>【第2回】 学校の取り組みが順調に推移していることが理解できた。組織改革や授業改革が順調に進み、さらに進化した柴島高校となり、「持続可能な柴高作り」が実現することを期待したい。</p> <p>【第3回】 学校教育自己診断等の結果(数値データの伸びが不足)については理解する。方向性が間違っているわけではないのでそれを学校内外にどうアピールするかを今後も工夫していただきたい。また、今年度大きく教職員が入れ替わった中で、これだけの教育内容を維持し続けたことだけでも称賛に値する。「持続可能な柴高作り」が順調に進んでいることの証でもある。</p> <p>授業改革が成果を見せたことは理解した。今後も授業改革(アクティブ・ラーニングの取り組み)が人権教育と融合し成果を見せ、それをアピールできるよう頑張ってください。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標【H28の数値】	自己評価
1 主体的な学習に向けた授業改善の推進	<p>(1) 生徒の発表の場・機会を増やし表現力を高めるとともに互いの違いを学ぶ。</p> <p>(2) 授業力向上を図るため教科での授業の「アクティブ・ラーニング」化を進める。</p> <p>(3) 電子黒板を活用した教材開発を進める。</p> <p>(4) ユニバーサルデザインを意識した教育環境、授業づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングの視点から生徒が自ら課題を発見し、考え、発表する機会を増やす。 ・昨年度整備された視聴覚機器をさらに活用し表現力の育成を図る。 ・「視覚化・協働化・構造化」をキーワードにした授業改善の推進を図るための研修と相互に公開授業研修会を昨年度に引き続いて実施する。(研修2回/年、公開授業2回/年) ・ユニバーサルデザイン化をキーワードに各教室に整備されたプロジェクターを活用し視覚による理解を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「アクティブ・ラーニング」の項目(70.5%→75%)【67.2】 ・授業アンケートの結果「授業への意欲」(3.09)【3.11】「授業の達成感」(3.09)【3.12】をそれぞれ「3.20」を目標とする。 ・研修の実施と内容を点検し成果を求める。 ・学校教育自己診断「ICT機器の活用」の項目(79.4%→82%)【78.4】 ・授業アンケートの結果「教材の活用」(3.19)を「3.3」を目標とする。【3.20】 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングの校内研修を実施(9/12)し教職員のその必要性・有効性の理解と意識は高まり、実際の授業改善に役立った。(○) ＊「教えない授業」などの実践が多数見られた。 ・プロジェクター型電子黒板の活用が定着し、授業等で有効利用できている。(○) ・主体的な学びの育成で自宅学習の習慣が定着した。(◎)(生徒:42.8→46.8%,教職員28.1→53.7%) ・地域の小中学校と連携し5回の研修を実施し研究授業も3回行った。(◎) ・校内では授業公開週間を実施し互いに授業を見せ合い研究協議を進めることで授業力の向上を図った。(○)
2 キャリア教育・人権教育の推進	<p>(1) コアカリキュラムのさらなる充実、効率化を図り次世代を担う「生きる力」の育成を図る。</p> <p>(2) コアカリキュラムの授業における地域教育資産の開拓を図る。</p> <p>(3) 科学的データ分析による科目選択・進路選択</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コアカリキュラム3年間の指導について継続的に改善を加えるとともに、評価法の研究を行う。 ・地域活動協議会への参加と連携を行う。 ・地域企業との連携授業を継続して実施する。 ・地域ボランティア活動への参加を行う。 ・出身中学校への訪問を実施する。 ・コアカリキュラムの活用でコミュニケーション能力をはじめ、論理的思考力・判断力・表現力の育成に継続して取り組む。 ・生徒の資質・能力を科学的に分析し科目選択や進路指導に引き続き活用する。 ・「産業社会と人間」(ライフプランニング)の授業などを通して自分を知り自分を見つめさせ、自分の将来を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修で成果の報告を行う。 ・学校教育自己診断「探求力」の項目(77.0%→80%)【75.7】 ・学校教育自己診断「論理的思考力」の項目(67.9%→71%)【67.8】 ・学校教育自己診断「地域とのかかわり」の項目(65.5%→68%)【59.6】 ・学校教育自己診断「進路に関する情報提供」の項目(85.6%→86%)【82.9】 ・進路達成率(98%→98%) ・学校教育自己診断「自分の生き方を自分で決める力の育成」の項目(78.5%→82%)【77.8】 	<ul style="list-style-type: none"> ・12月の校内研修においてコアカリキュラムの成果と課題を議論し一定の成果の確認を行った。(◎) ・進路達成率98%(○) ・コアカリキュラムの評価については文章表記、ルーブリック評価・観点別評価等の方法が定着して生徒への還元ができています。(◎) ・地域医療・防災マップの作成を行い、校内や地域の事業所に掲示した。(◎) ・地域活動協議会の要請により、敬老の日のイベントや地域のイベント(夏祭りや桜まつり、区民まつり)に積極的に多くの生徒が参加し好評を得た。(◎) ・和菓子屋さんとの連携で市販の商品開発を行い、実際に販売していただいた。(◎) ・東淀川支援学校の文化祭に出演し交流を行った。(◎) ・淀川キリスト教病院と連携し、地域清掃活動を実施した。(◎) ・本校の生徒の状況を報告するために在校生の出身中学への訪問を行い好評だった。(年2回)(◎)
3 安全安心で魅力ある学校づくり	<p>(1) 熟慮して判断し自立ある行動のできる生徒の育成する。</p> <p>(2) 互いの違いを認め合い、尊重し合うことを学ばせる。</p> <p>(3) 「共に学び共に育つ教育」についてさらなる充実を図る。</p> <p>(4) 生徒同士が協働して物事に取り組む力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間管理や学校からの連絡事項などを、自らコントロールできるように指導し、社会人としての基礎を築かせる。 ・人はそれぞれ違いがあることを学び、たとえば考え方や価値観が異なってもコミュニケーションができる力を育成する。 ・自立支援コース生を含めすべての生徒が「共に学び共に育つ」ことの意義を認識し、社会に貢献できる力を育成する。 ・授業などを通して他者と協働し課題を解決する力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「自分を律する力の育成」の項目(70.4%→75%)【69.4】 ・学校教育自己診断「異なる価値観の人とのコミュニケーション力の育成」の項目(80.5%→83%)【79.2】 ・学校教育自己診断「共生社会に向けての努力」の項目(92.5%→93%)【88.8】 ・学校教育自己診断「他者との協働」の項目 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の管理などは一定の成果が挙げられている。生徒は多様な時間割を自分で把握し行動することができている。(○) ・「互いに違いを認め合い尊重しあう」教育を実践しコミュニケーションの力もついている。(○) ・SSW(ダブルセッション)をPTAの理解・協力を得て活用し生徒の支援に役立った。(◎) ・自立支援コース生を中心とした共生社会の実現に向けた取組みも定着し一定の成果を収めている。(○) ・コアカリキュラムを中心にグループワークなどを通して協働する力の育成を図れた。(73.1%→72.6%)(○)

府立柴島高等学校

4 ICTを活用した校務の効率化	<p>(1) ICT化をさらに進め、生徒への連絡事項の整理や、教職員間の情報共有を進める。</p> <p>(2) 校務のICT化を進めることで会議の効率化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒向け電子掲示板の充実を図る。 ホームページやブログ、メールなどで生徒や保護者への連絡事項の徹底や、学校行事などの広報に活用する。 教職員間での連絡事項や周知事項の徹底をICTの活用で進め、会議の効率化に貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断「Webページの活用等」の項目 生徒(81.9%→85%) 保護者(88.4%→90%)【85.7】 職員学校診断アンケート「会議の充実・時間短縮」の項目 (9.1%→20%)【51.2】 	<ul style="list-style-type: none"> 学校のブログ「柴高の毎日」の更新は2月末で1516となり十分な情報発信を行っている。(◎)(昨年同時期 1289) 教職員間の連絡はICTネットワークの【連絡掲示板】を活用し職員朝礼や会議の時間短縮を図っている。(◎)
---------------------	---	--	---	--